

情報システム分野

私の勤務先は設計事務所である。システム開発やサーバー運用などの情報システム関係の業務に携わっており、問題解決が仕事だと思っている。システムが完成した時はもちろんだが、不具合を解決できたり、ユーザーの問題を解消できた時に、日々仕事のやりがいを感じている。

技術者を目指したきつかけは、高校生の頃から一生涯にわたる専門的な仕事に就きたいと思ったためだ。大学は工学部建築学科に進んだが、システム開発に適性があったよう

凛としていきる

理系女性の挑戦

肩の力抜いて、自然体で



キャリア形成講座の講義

キャリア形成講座の講義

で、大手ゼネコンを経営する中で、業務内容が一貫して情報システム分野である。建築設計業界では、女性はその珍しい存在ではない。技術系でも2、3割はいるだろう。今から30年ほど前、女性活用が叫ばれるようになった。女性活用が叫ばれるのは、リケジョのロールモデルの重要性が取りざたされるが、ロールモデルがいなければ、後に続く人が育たないというわけではない。むしろ、スーパーウーマンのロールモデルを示さなければならない。自分ができる事をできる範囲ですればいい。無理をして、長期間継続するのは難しい。技術者として仕事を続けたいとしても、母業優先だと考えれば、そのように行動す

べきだと思う。幸い、ワークライフバランスの価値についての意識が高まっている。長時間勤務することが会社への貢献度が高いという時代ではない。私が大学のキャリア形成講座で講義した時の経験では、最近の学生たちは男女を問わず将来職業に就いて家庭を維持していけるか不安を感じているようだ。しかし考えてみれば、仕事をしながら、毎日子供に食事を食べさせて成長を見守るということは、特別なことではない。肩の力を抜いて、自然体で当たれば、きっと誰でもできることだ。そして、

その先には大それた事ではないが、自分なりの満足感が待っていると思う。

企画協力・日本女性技術者フォーラム（JWEF）

山下設計
情報技術室室長
廣瀬 由紀

〈プロフィール〉技術士（情報工学部門）、一級建築士。日本技術士会男女共同参画推進委員会委員・日韓技術士交流委員会委員、女性技術士の会会員、山梨大学非常勤講師



廣瀬 由紀